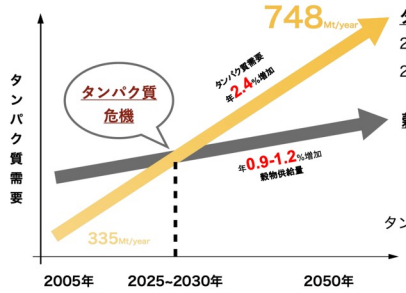
株式会社グリラスは、30年に及ぶ徳島大学の基礎研究をベースに、コオロギの可能性を社会に実装していくことを目的として創業したスタートアップです。

GRYLLUS

使われていない食品ロスから環境負荷なく育てられるコオロギで新たなタンパク質を生み出す！

解決したい課題①動物性タンパクの枯渇

人口増加と経済発展に伴い需要が拡大する一方、餌となる穀物などの供給が追いつかない



タンパク質需要量：年2.4%増加

2005年次と比較すると、
2050年次の生産量は210%増加予想

穀物供給量：年0.9~1.2%増加

タンパク質需要と穀物供給バランスの崩壊

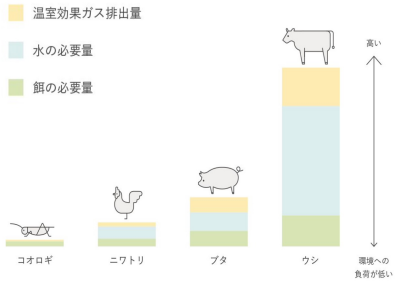
タンパク質危機

・温室効果ガス Oonincx et al., 2010. ・水の量 Pimentel et al., 2004.・餌の量 van Huis, 2013.

Copyright ©2022 Gryllus Inc. All Right Reserved.

コオロギのよる解決①環境負荷の低いコオロギで効率よくタンパク質を生産

コオロギは、他の畜産に比べて効率よく育つことができるため、環境負荷が低い



	コオロギ		ウシ
1kgの体重増加に必要な飼料	1.7 kg	5.8倍	10.0 kg
1kgの体重増加に必要な水資源	4 L	5,500倍	22,000 L
1kgの体重増加に排出する温室効果ガス	100 g	28倍	2,800 g

van Huis, 2013 / Oonincx et al., 2010 / Pimentel et al., 2004

Copyright ©2022 Gryllus Inc. All Right Reserved

商品ラインナップ（一部）

解決したい課題②未活用で廃棄される食品廃棄物／食品ロス

食品残渣の再生利用に長年技術革新なく飼料化したものにも残渣が発生。
日本の一人あたりの食品ロスの発生量は世界でもトップクラス

世界の食料廃棄※1
年間9.3億トン
年間生産量の1/3が廃棄

日本の食糧廃棄※2
年間2.531万トン
うち事業系：1,765万トン
うち家庭系：　766万トン

日本の食品ロス※3
年間522万トン
1人あたり年間約42kgを廃棄

※1 2021年発表　UNEP Food Waste Index Report 2021(70ページ)｜UN(国際連合)
※2 令和4年発表　環境省　食が国の食品ロスの発生量の推計値(令和元年度)のとりまとめについて
参考 ※2 令和3年発表　環境省 農 平成 30年度 食品廃棄物等・食品ロスの推計結果

Copyright ©2022 Gryllus Inc. All Right Reserved

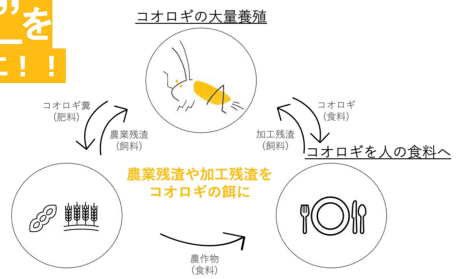
コオロギのよる解決②コオロギの”雑食性”を活かし、循環型の生産に取り組む

産業構造の中に、『循環（アップサイクル）』を構築

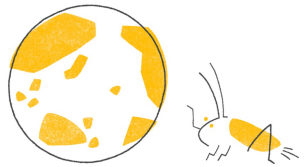
“未利用資源”をコオロギのご馳走(飼料)に！！

・限りある資源の有効活用を目指せる
・海外資源に頼らなくていい

＝どこでも育てられる



Copyright ©2022 Gryllus Inc. All Right Reserved



お問い合わせは以下までお願い致します。
株式会社グリラス　営業本部
担当　：岡部・西郷・竹本・益子
E-mail ：sales@gryllus.jp